掲示板

教科書編集部便り

もう一つの「すがたをかえる大豆」

三年下巻「すがたをかえる大豆」には、当初はもう一案「植物としてのダイズの知恵」に焦点をあてた案もありました。わたしたちの食生活に欠かせない大豆とはいったいどんな植物なのかを知ることを通して、身近な食べ物に興味をもってほしいと考えたのです。少しだけご紹介します。

「ダイズは、根にも根粒といわれるマメができる。根粒の中には根粒菌とよばれる細菌が多く住んでいて、植物の生長にとって重要な窒素を集め、植物が利用しやすい形にしてくれる。ダイズは根粒菌から窒素を受け取ることができるため、やせた土でも元気に生長することができる。ダイズはお返しに、根の中に根粒菌が住みやすい場所を用意し、太陽の光を利用して作った養分を根粒菌に与える。ダイズと根粒菌は、お互いに大切なパートナーなのだ。」

最終的に「食べ物としての大豆のすばらしさ」を中心にした今の文章になりましたが、どちらの案にも「身近な食べ物に関心をもち、自分たちの『食』を見つめ直してほしい」という願いがこめられています。

食卓にある食べ物には、当然、収穫される前の植物としての姿や動物として生きている姿があります。子どもたちがこの教材をきっかけに身近な食べ物に目を向けると同時に、「この野菜はどんな花を咲かせるのかな」「この魚はどこの海にいたんだろう」など、時間的にも空間的にも、さまざまなことに想像を広げてくれたらと思います。

「わらぐつの中の神様」の「雪げた」

五年下巻「わらぐつの中の神様」は、昭和五十二年から掲載されている定評ある教材です。この作品中に「雪げた」が登場します。「雪げた」とはどんなものなのでしょうか。

写真1は、北海道などで見られる「雪げた」です。踏みしめたときに、きめの細かい雪が固まって、二本の歯と歯の間に雪がはさまってしまわないように、歯が台形になっています。

写真2は、新潟地方で見られる「雪げた」です。前歯をなくして後歯だけになっています。新潟地方に降る雪は、水分が多い「ベタ雪」です。ですから、前方が雪に沈みにくいような形状になっています。

「雪げた」は、使われている地方の雪の性質によって、形が違うのです。作者の杉みき子さんの出身地が新潟であることから、教科書9ページで描かれるのは、写真2のような「雪げた」の挿絵になりました。文学作品の挿絵は、たとえ本文に書かれていないことでも、作品の背景になっている事実を調査し、それに基づいて描かれています。

写真1

提供：日本はきもの博物館

写真2

提供：小林履物店

広報部便り

言語教育振興財団研究助成金　申請募集

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、優れた研究開発を行う個人又は団体に対して助成します。

◇**助成内容**
①言語教育の内容・方法に関するもの
②言語教育教材の質的向上に関するもの
③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの

◇**応募資格**
小・中・高等学校で国語、英語、日本語教育を担当する教員
個人・団体（研究団体、学校（学年単位も含む））

◇**助成件数及び金額**
助成件数は八十件までとする。
助成金額は一件につき二十万～五十万円とする。

◇**応募方法・締め切り**
所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書又は実践報告書等の参考書類を添えて、十二月二十六日（水）必着で当財団事務局に郵送。（返信用封筒を同封のこと）

◇**決定・発表**
当財団「選考委員会」による選考を行い、平成二十年二月中旬に決定通知をします。

◇**問い合わせ先**
財団法人「言語教育振興財団」事務局
〒一四一-〇〇二一　東京都品川区上大崎二-十九-九
TEL　〇三（三四九三）七三四〇
FAX　〇三（三四九三）二一七四

お知らせ

「国語教育相談室」では、今回より、「教師力講座」と「おはなし定期便」の二つのコーナーを新設しました。

「教師力講座」は、国語科授業や学級経営などについての身近な悩みを取り上げ、明日からの授業に役立つ具体的なエピソードをご紹介していきます。

「おはなし定期便」は、毎号読み切りの創作短編をお届けします。あらためて「読書」の楽しさを実感していただければと思います。

また、この「掲示板」では、教科書編集部から、教材についてのエピソードをお届けしたり、よくあるご質問についてお答えしていきたいと思います。

ホームページ「光村チャンネル」も随時更新中です。会員サイト「わたしの授業」では、国語以外の教科でもアイデア豊かな指導案がご覧いただけます。会員登録は無料です。ぜひご活用ください。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！

FAX:　03-3493-5483
E-mail: kohoo@mitsumura-tosho.co.jp

http://www.mitsumura-tosho.co.jp